

# 母と子のにわ

—利用者みなさまと母子医療センターをつなぐ—



発行

地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立母子保健総合医療センター



第34号

2015 Summer

## 入退院センターがオープンしました

平成27年7月1日に入退院センターがオープンしました。

### \*入退院センターは

入院治療を行うお子さんとご家族の方が安心して入院していただけるように支援させていただくところです。

入院前にお子さん・ご家族の方の身体的・精神的・社会的な情報をお聞きするとともに、入院生活におけるお子さん・ご家族の方の不安を少しでも軽減できるよう支援させていただきます。

### \*入院までの流れ

入院までに3回入退院センターに来ていただきます。

入退院センターが  
オープンしました 1

「小児がんセンター」  
のご紹介 2

こどばいろいろ  
「トランジションと  
移行期医療」 3

センターからのお知らせ  
外来フロアのご案内 4

**1回目** 診察室で入院治療が決定されましたら、入退院センターに来ていただきます。入院までの注意事項の説明をさせていただくとともに入院にあたってのご質問にお答えいたします。

**2回目** 麻酔科受診、採血などの術前検査日に入退院センターに来ていただきます。お子さんの普段の生活の様子をお聞きします。  
また、入院生活におけるご質問やご不安などもお聞きし、少しでも入院に対する不安をなくすように努めます。病棟内の説明、入院中にご協力いただきたいこと、施設の使用方法などについて説明しているビデオをみていただきます。

**3回目** 入院当日に入退院センターに来ていただき、発熱の有無など体調の確認をします。また、薬剤師による持参薬確認・服薬指導をさせていただきます。その後、入院病棟にご案内します。

### \*入退院センターの場所

患者支援センター（コアラのマーク）の中にあります。コンビニエンスストアの斜め前になります。

現在は小児外科系の入院患者さんを対象にしていますが、今後は小児内科系の患者さんにも広がっていく予定にしています。

また、今は入院支援が中心ですが、今後は退院支援も充実できるように体制を整えていきたいと思っています。

入院までの準備や入院生活、退院後の生活でご不安なこと、ご相談などがありましたら、遠慮なく入退院センターにご連絡ください。

（文責 患者支援センター 田家 由美子）



# 「小児がんセンター」のご紹介

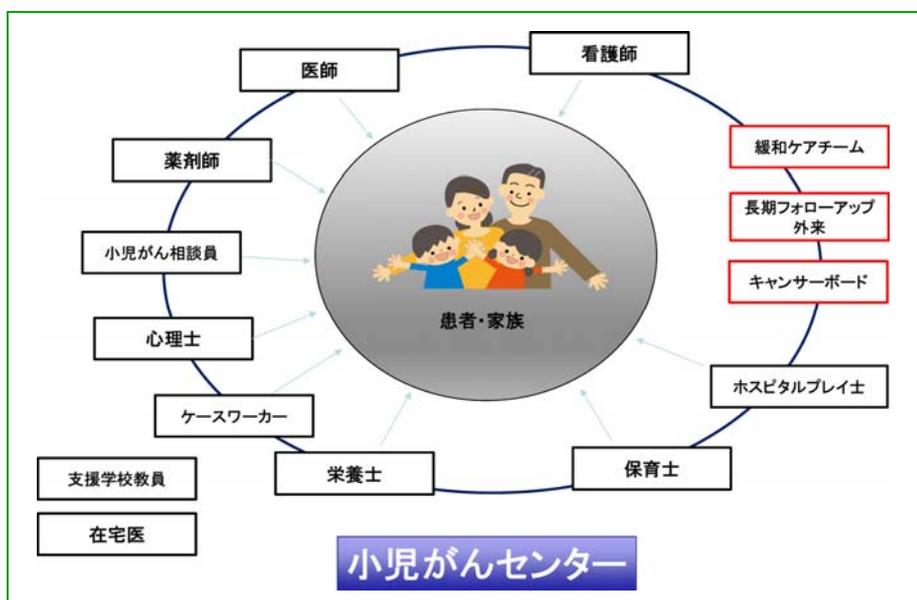


## 1. はじめに

大阪府立母子保健総合医療センター（母子医療センター）は、赤ちゃんから思春期・若年成人に至るまで、子どもの成長に応じてきめ細やかな診療を行っています。

様々な難病に対応できるスペシャリスト（医師、看護師、コ・メディカル）が力をあわせ、最先端の医療を提供すべく努力を続けています。

小児がんに対しても病院全体が一致協力して取り組む体制が整っており、2013年2月に国から「小児がん拠点病院」の指定を受けました（全国15施設）。2014年5月には院内に「小児がんセンター」を組織し、活動を開始しました（図）。



小児がんを診療するためには、多くの専門家が関わる必要があります。的確に診断し最適な治療を行うために、検査科、放射線科、小児外科、血液・腫瘍科など複数の診療科が力を合わせる必要がありますし、長期間の治療を滞りなく行うためには、本人だけでなく家族を支える仕組みが不可欠です。

「小児がんセンター」は、診断・治療に直接関係することだけでなく、療養生活に関連する様々な課題について、多職種が協力し取り組んでいます。

## 2. 診療の特徴

過去数十年の医学の進歩により、小児がんは「治せる」時代を迎えています。がんの種類によって治療成績に若干の違いがありますが、小児がんの7割は治せるようになりました。

私たちは、むやみに厳しい治療を行うのではなく、「晩期合併症なき治癒を目指す」ことをモットーに、小児がんの子ども一人一人の病状に応じて最適な治療を行っています。

### 1) キャンサー・ボード

週1回、関係する複数診療科の医師を中心とするメンバーが集まり、一人一人の小児がん患者さんの診断・治療方針について話し合い、チーム医療を実践しています。どの診療科にも優秀なスペシャリストが配置されています。

### 2) ミニ移植（骨髄非破壊的移植）

再発白血病など治すことが難しいと予想される子ども達には造血幹細胞移植（骨髄移植、末梢血幹細胞移植、さい帯血移植）を行っています。子どもに対する造血幹細胞移植の実績は全国1位です。従来型の全身放射線照射＋大量化学療法を用いる移植では、成長障がいや内分泌障がいなどの晩期合併症を避けがたいため、骨髄非破壊的移植（通称：ミニ移植）に積極的に取り組んでいます。ミニ移植の成績は従来型の移植と比較して遜色がなく、むしろ良好な成績が得られており、晩期合併症の頻度を低く抑えることができています。

### 3) 緩和ケア

緩和ケアは終末期医療と同義語ではありません。がんと診断したときから始める痛み対策なども緩和ケアの一環です。母子医療センターには子どもに苦痛を我慢させることなく、子どもらしい生活を維持しながら治療を受けられるよう、子どもだけでなく家族を含め総合的に支える仕組みがあります。

### 4) 長期フォローアップ外来

がん治療が終了し、再発の心配がなくなっても、がんそのものの影響や強い治療のために、成長障がい、内分泌障がい、不妊などの晩期合併症に悩まされることがあります。小児がん治療終了後も子ども達の成長を支えるために複数診療科・多職種が関わり、長期フォローアップ外来での診療を継続しています。

### 5) 外来における看護師による支援

外来を受診している造血幹細胞移植を受けられた子ども達を対象に看護しています。退院後の生活のなかで不安に思っていることや困っていることを看護面からサポートしています。

### 6) 心理社会的支援

療養生活中的教育（院内学級）、経済的支援など、子ども達やご家族にとって必要なことが診療以外にもたくさんあります。患者支援センターがあらゆる相談に応じています。

## 3. 最後に

母子医療センターの子ども達への思いは「子ども達に勇気、夢そして笑顔を」です。「小児がんセンター」はこのコンセプトにもとづき、がんの子ども達に最適な医療を提供すべく、これからも様々な課題に取り組み続けます。

(文責 小児がんセンター運営委員会 井上 雅美)

## ことばいろいろ

### 言葉の定義 トランジション (Transition=移行) と移行期医療

小児期発症の疾患をもっている患者さんが、成人期になってもその病気の継続的な診療を受けることに加えて、妊娠出産、高血圧やコレステロールが高い、といった成人領域の問題にも対応してもらうためには、個々の患者さんにふさわしい成人期医療への移り変わりがが必要です。小児科から内科への転科（トランスファー：transfer）と主治医の交代というイベントを含む一連の過程がトランジション（Transition=移行）です。トランスファーに向けて様々行われる小児期医療から成人期医療への移り変わりの医療を「移行期医療」と呼びます。移行期医療は、小児科側から見ると疾患を持ちながらも患者さんを独立した成人として巣立たせる自立の支援過程であり、患者さん側から見ると病気を受け止める過程であり、移行後どこで診療を受けるか納得の上選択する過程であります。そのためには小児科内科の主治医同士の連携も必要になります。10-12歳には検討を始める必要がありますが、このような移行期医療の内容や提供体制はまだ確立されていません。

母子医療センターでは2012年から移行期医療の内容や体制の検討を始めています。子どもたちの自立へ向け、子どもたち自身、保護者の皆様、支援学校の先生方とともに我々スタッフ一同でよりよい方法を一緒に考えていければと思います。

なお、キャリアオーバーという言葉もよく耳にしますが、国内に限って使われてきた言葉で、小児期から成人期に慢性疾患が持ちこされること、あるいはそうした疾患を持つ若者・成人をさしてあり、積極的な意味合いではないため、今は使われません。

(文責 消化器・内分泌科 位田 忍)

**1 看護外来 (新設)**  
 ※療養相談・指導などを行っています。

**3 麻酔科外来 (移設)**  
 ※手術棟1階に移動しました。

**2 入退院センター (新設)**  
 ※「母と子のにわ」1ページをご覧ください。

**4 ボランティアハウス (新設)**  
 ※きょうだいのお預かりやゾーイングの依頼を受付けます。



**地方独立行政法人大阪府立病院機構  
 大阪府立母子保健総合医療センター**

〒594-1101  
 大阪府和泉市室堂町840  
 電話：0725-56-1220 (代)  
 FAX：0725-56-5682

ホームページもご覧ください  
<http://www.mch.pref.osaka.jp>

大阪府立母子保健総合医療センター 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、  
 質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- ・周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- ・患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- ・地域の保健医療機関と連携して母子保健医療を推進します。
- ・母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。